治河流述纂

巻六

へ13
3299
16

3299
16

[illegible]

一 [illegible]

久米穣

薩藩流球軍務記巻之壱

目録

一 薩藩琉球の邦交の事
　幷政形智計武勇の事
一 流球より薩藩へ出て陪臣の事
　幷新納一貫の事

大正十年八月廿九日寄
本大學出版部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

碁のことの御師匠の用ことあるを
しるべ浦野弟子必死は雪之丞
百藤人目を忍ぶ浦野の家
うるさい人死の用ことあるを
にあやまりて弟子知らぬふり
あるべし浦野様の事御ことば
中ゝ言葉くいそぐべ
御用ことあるを中ゝ浦野様
にて大の者

うの御さの用ことあるを
ぶさそやまりあるを御ことこ
まりまりまりまり婚浦うく立ちの
中あり弟子迎宮小浦ひとあり
浦田浦御和田屋敷有人宮
まりのうのうん浦田
浦八人丸男あり光寺ぐ
婚ある丸男あり和田

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

人数をそろへ用意仕て宮
の三位殿の上ゆきを目
四方に是をかこむ
とうぎ[illegible]
中ゆかせてまゐらせ[illegible]
[illegible]播国加古川[illegible]
[illegible]
[illegible]

名のり中[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人間のうんと迷惑して渋柿の
見て家につき俵貢納れて来る
[illegible]人と[illegible]きすものの[illegible]
浪人とのうちの[illegible]
[illegible]
[illegible]

うち春ごとにかぶりも今青海波の色
小川の水のうごき出て
一文字もせずしてさん〳〵ふかくく
遊女らるあくさの大河のとゞ
もの〳〵浦浜として紙幣芋の浦野
ふもとしいまや乳もしぼくうとび
ゆしかりしのまくにかけさしも
山の根のつらのうごき物あるごと

年ゝ山ゆきて大海と流れ
根生飛生浦の和泉事のうとび
富士郎の業所もるあく
のゆの町郎小出和泉へ
一番りへ入る市所あきんと中るれハ
横田和郎ごいるそれど浦人音
くうけるもるもの後ゝ
日ゝふとて一四の陸ふとと芝夏

けるとき其用をとり取捨きづれ
流派をたてゝ前人の為のとし
雖史を得て事実をしりて書
小をのぶべの知見を浅深をあ
設をしるべきなり流派をわざとい
ふ流派を近年もらでをもあ
生徒年来けるとあるべきみ
中ふ小を流派をいまを見

仰元来と事所
ふ所故をふ流き
今所所
流行のとを仰事を小主流
主流を大主流を最流のまで
事実をもしぬんを流しを
主流の為を為を流ぬ
仰てをの勢流をしをも
即所をの所流事実事の

知まゝ〳〵に法師のよそ目
ばかり〳〵見るに〳〵ぐ和
尚の言葉のゝべ〳〵云ひけり〳〵町中
梅さく〳〵大軍押寄
あつて大王ありて和
ひゝき目顔心〳〵なりもく心
ぜ〳〵のあと物まこと和
和〳〵町中の敬ひ和尚の出

ゆ〳〵て方〳〵の山〳〵法師〳〵見る
のまゝ〳〵出流原さの前事物
峰中ゆ〳〵生捕の者〳〵
ちつひさずして和尚
道理のあるゝ和尚
御面ゝ〳〵ひゝり〳〵宝
物〳〵見るのゝ和尚
永徳ゆゝのゝ〳〵

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

まことにかくれなく人のうれへにより
所領没収されて流罪せられる
波の事なれば塩の
ども苦しがりてこれをかくし
らんとてはかりごとをなして
海さくをかいて
くるを見てもこれを
海門院に命じ
海へ命じ
くるを海州殿も
迎へけるに
関屋の間より
長くる流
ありしに
出てもはんと
海へ入かぎりなれば
海州殿も
陽
御
仲の
海

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

海にて海賊の船
出でしき敵手段拙宵すれども敵
海賊船ども二十艘ばかりの道を
船宿すれども暁より海路に向かう
知り海の船賊
皆ども皆船鄙岩ヶ一艘も
のこらず西の方へ向かう岩ヶ
海賊船ども出船のきしにを渡も

ひらけ出でに月もよ
り迫りとしぶも山
しうで水のうに
海ともえ元寿
よりやうに海の船
あん船に船
なれば海の岩
海賊船者ども

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]元基連百の合歌
[illegible]
[illegible]遠浦秋池
[illegible]の月ゆゑ
[illegible]心もなく
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

のとき御先手の鉄砲打ち
させられて強き一度の御ひり
かけ前夫より城の設ケ鉄
砲少なのゆえ御陣場へ打立られ
遠き事はなはだ又々敵
敗走なれば御備を乱さぬ
いうち先手の者ども
あの御仕遂げもせんとて
御仕舞前の事
御備を小間に打くず
れ御備も頻りに成
もうもうの時御中にて
ばらんとせられて備前の軍法
と申しも出でくれ打立て御
御備馬の手前にて
御引きなれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゆくゝと出られて[illegible]きゝ
怪しい数千の[illegible]
きゝ人[illegible]中[illegible]
ゆくゝ[illegible]でゝゝゝと[illegible]
出るのまに[illegible]
まゝ川[illegible]
見ゝゝ向ゝの[illegible]
ゆくゝゝゝで出[illegible]数千

人[illegible]ゝ出ゝこまぎとせ
ゝゝ中[illegible]
向ゝの[illegible]
出られ[illegible]ゝ向ゝ
[illegible]の町出ゝ
[illegible]郡[illegible]
大半[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]